

はばたき

2021年 秋

Sasebo Chuo Hospital Public Relations Magazine

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

白十字会グループSDGsへの取り組み



LINE UP

- ✓ 白十字会グループにおけるSDGsへの取り組み紹介
- ✓ 委託・協力企業の紹介(株式会社グリーンハウス)



社会医療法人財団 白十字会
佐世保中央病院

白十字会グループは、創業100周年に向けてSDGsに取り組みます！

今年度より、当院を含む白十字会グループでは「SDGs」の取り組みを開始しました。白十字会グループでは、地域社会へ医療・介護サービスを包括的に提供しています。医療・介護サービスは地域住民の皆様が生活を送る上で無くてはならないサービスのひとつです。地域に根差したこのサービスを「持続」させていくために、SDGsに則した取り組みを行っていきます。

SDGsとは

SDGs（エスディージーズ）は「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」のことを指します。国際連合に加盟するすべての国が、2016年から2030年までの15年間にわたって、達成に向け取り組むべき共通目標として世界の国々や日本政府、企業や地方自治体で広く取り組まれています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsには、社会や経済、環境の課題として17の目標が掲げられています。たとえば、目標3「すべての人に健康と福祉を」や目標8「働きがいも経済成長も」、目標13「気象変動に具体的な対策を」など、世界共通の様々な課題が挙げられています。

白十字会グループでは、私たちが日々行っている業務や取り組みをSDGsの目標と結び、未来の地球や地域のために私たちが「何を目指して」「どの様に」「何を行っていくのか」を表現していきます。

SDGsの掲げる「誰一人取り残さない持続可能な世界」の実現は、私たち社会医療法人・社会福祉法人の使命でもあります。白十字会グループの理念である「患者さんが1日も早く社会に復帰されること」そして「地域社会の一員として時代に即した社会貢献を目指すこと」を実現するための取り組みとSDGsの17の目標を結び、私たちがどのような形でSDGsに関わっているのかをご紹介します。

白十字会グループは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に
健康と福祉を



白十字会グループ中期（2021年→2023年）のビジョン

地域包括ケアシステムの構築

地域包括ケアシステムとは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される包括的なケアシステムの総称です。団塊の世代の方々が75歳以上となる2025年を目途に、厚生労働省が各市町村で地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

白十字会グループでは、長崎県佐世保市・佐々町および福岡県西部において、医療から在宅介護までの幅広いサービスを提供しています。白十字会グループの中期ビジョンとして「地域包括ケアシステム」の構築を推進していきます。同じグループだから可能な、きめ細やかな連携と柔軟な対応で、地域の高齢者の方々が少しでも長く、快適に住み慣れた地域で暮らしていくお手伝いをさせていただきます。

白十字会グループの取り組み

各種医療・介護サービスの提供

- ・急性期病院（2施設）・回復期病院（2施設）・介護老人保健施設（3施設）
- ・介護老人福祉施設（1施設）・訪問サービス／通所介護事業所等（34施設）
- ・福祉用具販売レンタル事業（1施設）

白十字会グループでは、第7期の中期経営計画として5つの分野 分野①診療技術・介護技術の進展、分野②入院（入所時）から退院（退所）後までの適切な支援、分野③働き方改革、分野④グループ間相互連携の強化、分野⑤新しい時代・生活様式に対応した経営基盤の強化 に力を入れていきます。ここからは、この5つの分野とSDGsの目標との関わりをご紹介します。

4 質の高い教育を
みんなに



4 質の高い教育をみんなに

質の高い医療・介護を実践するために白十字会グループでは職員教育に力を入れていきます。

分野① 診療技術・介護技術の進展

介護する側・される側双方の心身負担が軽減される「ケア技術」「ユマニチュード®」の技術習得に全職員で取り組んでいます。また、認知症についての正しい知識と理解を持ち、認知症の方を地域で温かく支えていくことができる人材育成を目的とし、全職員「認知症サポーター」取得を目指して研修を行っています。

分野④ グループ間相互連携の進化

医療・介護の業務知識を幅広く身に着けるため「在宅支援スタッフの育成研修」を行っています。職種にとられない全職員を対象に座学だけではなく、現場での実地研修も行われます。

8 働きがいも
経済成長も



8 働きがいも 経済成長も

医療・介護事業は、そこに働く「人材」で成り立っています。職員の満足度が、患者さん・利用者さんの満足度に直結するため、職員の負担軽減と満足度向上に力を入れていきます。

分野③ 働き方改革

定型的な説明を「動画」に置き換え、視覚的にわかりやすい説明に努めています。特に、入院時に事務説明や手術・検査の説明をタブレット等の端末で動画を使って行っています。

分野⑤ 新しい時代・生活基盤に対応した経営基盤の強化

患者さん・利用者さんの命を預かる医療・介護グループとして「感染予防対策」ならびに「安全対策」を各施設の事業計画に盛り込み、最大限の力を入れて取り組んでいきます。患者さん・利用者さんのみならず、医療・介護現場で働く職員の感染予防や事故防止にあらゆる対策を行っていくことで、安心して働ける職場づくりに努めていきます。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

医療から介護まで一貫した患者さん・利用者さん情報を共有し、適切なケアや在宅生活を実現するためのインフラ整備を進めています。

分野③ 働き方改革

ICT（情報通信技術）の導入を通じてグループ内外との情報共有を推進しています。また、ICTを使った患者さん・利用者さん支援にも力を入れていきます。

分野③ 働き方改革

持ち上げない介護を実践するため「介護ロボット」を積極的に導入し、ケアにかかる患者さん・利用者さん、そして職員の負担軽減につなげています。

11 住み続けられるまちづくりを



11 住み続けられるまちづくりを

在宅療養・介護を受ける人、それを支える家族が安心して住み続けられるための支援をグループ全体で進めています。

分野② 入院（入所）時から退院（退所）後までの適切な支援

入院（入所）時から退院（退所）後も安心して在宅生活を送れるようにニーズの抽出と提案を行っています。また、オンラインリハビリ相談システムを使用し、在宅での生活を支援しています。

分野⑤ 新しい時代・生活基盤に対応した経営基盤の強化

インフォーマルサービスの創出として、地域住民の方々が安心して暮らせるまちづくりのための専任部署である「地域資源創生課」に「生活支援コーディネーター」を配置しています。高齢者の方の買物支援や家事支援等の課題解決のために地域の民生委員や行政への働きかけなどを行っています。地域サロン活動運営支援において、地域の交流の場として住民の方々が運営しているサロン活動を、健康講話や健康体操への講師派遣、レクリエーションの提案などを通じて支援しています。

17 パートナーシップで目標を達成しよう



17 パートナーシップで目標を達成しよう

利用者さんが安心して生活できる環境づくりをパートナーシップで支援していきます。

分野② 入院（入所）時から退院（退所）後までの適切な支援

病気やケガでリハビリが必要な患者さんに寄り添い、回復に向けた「想い・願い」をグループ内施設に繋げていく「伴走セラピスト」が活躍しています。急性期医療から在宅生活までの各過程においてリハビリテーションセラピストが患者さんの「想い・願い」を次の施設へ共有し、スタッフが一丸となって患者さんが望む目標の達成を支援しています。

分野④ グループ内相互連携の強化

グループ内の人的交流を活性化させることで施設間連携の円滑化を図り、利用者が安心できる在宅生活の実現を達成していきます。グループ内の施設種類毎の知識が習得できるように、積極的な人事異動や施設を越えた研修・交流を行っています。

白十字会グループでは、これまでご紹介した「中期のビジョン」「第7期中期経営計画」の他にSDGsに貢献できる様々な取り組みを行っています。社会医療法人財団白十字会においては、2029年に迎える創業100周年に向けて、SDGsを通じて、社会貢献活動を積極的に行い、地域に必要不可欠な組織となるよう取り組んでいきます。

◀ 委託・協力企業の紹介 ▶

医療と介護の現場を共に支える仕事

株式会社グリーンハウス

企業理念

人に喜ばれてこそ会社は発展する



1947年、戦後の食糧難の時代。学生寮の食堂経営から一歩をあゆみだした株式会社グリーンハウス。学生から企業の食堂へと事業を拡大し、1966年にはレストラン事業「とんかつ新宿さぼてん」を開始。現在では中国料理、スペイン料理、イタリアンまで国内外に600店以上を展開されています。その他ホテル事業、コンサルティング、ソフトウェア開発など時代に沿った事業を多岐にわたり展開しサービスを提供されています。

食料確保が難しい戦後の時代、食べ盛りの学生たちのため食料調達に奔走。知恵を絞りながら“学生たちを立派に社会に送り出す”との考えから生まれた企業理念は現在に引き継がれ、今や日本を代表する健康貢献企業として業界のトップを走り続ける会社です。

佐世保中央病院・レストラン「スマイル」

職員と外来患者・家族向けに1日約80食から90食を5名(9月現在)のスタッフで提供しているレストラン「スマイル」。今年7月に大阪から単身佐世保へ責任者として赴任し、大阪と比べ味付けが甘い九州の味を学ばれている谷岡さんにお話を伺いました。



責任者(栄養士)
谷岡孝夫さん



今年8月からレストラン「スマイル」のスタッフは総入れ替わりしました。前任の責任者は料理コンテストで受賞されるぐらいの料理人でしたので、これまで作られてきた味を守り、安定した味で提供できるか不安を感じています。レシピを引き継ぎ提供していますが、私がまだ九州の味に慣れていないため、スタッフに味見してもらい確認しながら提供させていただいています。

オーダー数や残食などから、肉料理や揚げ物が人気で、魚料理は不人気の傾向のようです。ですので、新しく魚料理のメニューを開発し、栄養バランスのとれた品ぞろえでお迎えしたいと考え、現在勉強中です。皆様の活力となるようにおいしい料理を提供していきたいと思っております。新しいスタッフで皆様にご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

佐世保中央病院・厨房

株式会社グリーンハウスが長崎で進展する出発点が佐世保中央病院の厨房です。「患者一人ひとりに寄り添った安全でおいしい食事を提供する」という信念は、食欲不振の患者さんにカレーライスや、終末期の患者さんの要望に応えカップめんを提供されることも。個別に対応する人数や食事形態の種類は九州でトップクラスです。



責任者(調理師)
津平賢和さん



糖尿病食、循環器食、透析食など約14の食事形態に対応しています。そこからさらに患者さんに合わせて、たんぱく質量や塩分量などグラム単位で調整し提供しています。ここまで対応する病院は九州ではあまりありません。

コロナ禍前は、220名前後の患者さんに食事を提供していました。この数を用意するために現在24名で分業しています。料理の品で担当分けし、調理から配膳(トレイにのせる)まで一連の流れで作業をしています。こうすることで配膳ミスを防ぐ効果もあります。特別食の担当者は調理方法をすべて頭に入れておく必要があります。豊富な経験が求められます。コロナ禍前は情報収集のため、病棟に直接伺いアンケート調査をしていました。コロナが収まれば、調査を再開しより良い食事を提供できるようにしたいと考えています。



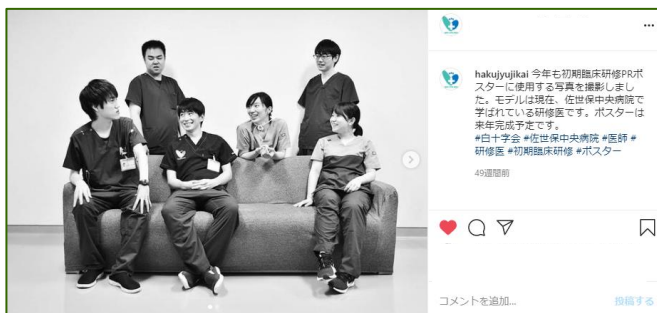
「安全」かつ「健康」な「食」の提供のために

業務で一番気を付けられていることが衛生面です。衛生管理の国際的な手法であるHACCP(ハサップ)を導入。さらに独自の管理方法として月に一回パート従業員も含めた全社員に衛生テストを実施、安全衛生教育を徹底されています。各事業所には1名の安全衛生統括責任者を配置。さらに地区ごとに衛生担当者を設置し、年に2回以上抜き打ちで社内監査が行われています。常日ごろから衛生への意識を高く持ち、社内発生してしまった事例は情報共有し再発防止に取り組まれています。また、スタッフ一人ひとりのスキルアップを目的に研修制度が用意されており、調理師は実技による研修、栄養士は月に1回業態別(病院・特養など)栄養士研修をされています。

TOPICS



白十字会・佐世保中央病院の
公式Instagram & Facebook 更新中！



白十字会
Instagram



佐世保中央病院
Facebook



初めて当院の外来受診を希望される方へ

- 当院の外来受診は、時間帯予約制をとっております。受診をご希望の方は、お電話にてご予約をお願い致します。
- 当院は地域医療支援病院の指定を受けておりますので、原則としてかかりつけ医療機関からの紹介状をご持参ください。
- 紹介状が無い場合は、初診時選定療養費と致しまして通常の初診料に加えて5,500円（税込）のご負担をいただいております。まずはかかりつけの医療機関またはお近くの医療機関の受診をご検討ください。

【予約窓口】

☎ 《再診／紹介状のない方》 0800-7000-888 (コールセンター)
《紹介状がある方》 0120-33-8293 (地域医療連携センター)

○土曜日は休日診療体制とさせていただきます。

- ・救急外来は24時間体制です。 ・医師の出張等により休診する場合がございます。
- ・すべての診療科において時間帯予約制をとっております。受診をご希望の方は、事前にご連絡いただき予約をお取りください。

社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院 〒857-1195 長崎県佐世保市大和町15番地

TEL: 0956-33-7151 FAX: 0956-33-8557 編集・発行: 佐世保中央病院 広報委員会

広報誌に関するご連絡先 E-mail: sch-kouhou@hakujujikai.or.jp 佐世保中央病院ホームページ <https://hakujujikai.or.jp/chuo/>